

平成 28 年度一般社団法人水産海洋学会研究発表大会ナイトセッション

水産試験研究機関と現場との関わり

-地域に密接に関わり貢献できる水産海洋研究者の育成と水産業の更なる発展を目指して-

主催:水産海洋学会若手・女性・地域活性化委員会

日時:平成 28 年 11 月 25 日(金) 18:30-20:00

場所:東京海洋大学品川キャンパス 9 号館 203 号室

プログラム

1. 趣旨説明:後藤友明(若手, 女性, 地域活性化委員会会長)
2. 各現場参加者から 事例紹介と意見交換

座長:後藤友明(岩手大三陸水研セ)

3. 総合討論

座長:後藤友明(岩手大三陸水研セ)・渡慶次力(宮崎水試)・西川 悠(JAMSTEC)

開催趣旨

我が国水産業, 複雑で変化に富む海洋環境中で多様な水産資源を漁獲することによって成り立っており, 漁業形態も地域特性を反映して極めて多様である。我が国で, 明治期に設立された水産試験場および水産講習所を前身とする水産試験研究機関(以下, 公設試とする)が全国各地に張り巡らされ, 複雑で多様な水産業発展に様々な形で寄与してきた。これら公設試, 調査船を用いた観測ほか, 漁業現場で漁獲実態把握や資源管理技術導入等, 地域水産業に様々な形で結びついているに留まらず, 海洋環境把握や資源評価等広域な海洋と水産資源利用においても極めて重要な役割を果たしている。特に, 地域公設試研究者, 現場と密接に連携しながら水産海洋研究と接点として役割も担っているが, 相互結びつき地域や漁業種類特性に応じて千差万別で, 現場信頼関係構築に基づいて多様な形で行われている。しかしながら, 当初行政組織一部として位置づけられてきた公設試予算や人員削減等が進む中, これまでような現場スペシャリストとして貢献が難しくなり, これまで培われてきた関係が変化しつつある。そこで, 本セッション, 各地公設試現場で行われている特徴的な取り組みや課題をリレー形式で紹介してもらいながら, 全体が抱えている共通問題と解決策を見いだしつつ, 他地域で行われている取り組みを参考にしたり共同研究可能性を探ることを目的とする。また, 将来公設試を活躍場として考えている大学院生等若手研究者にとって選択肢としても提供できる場としたい。

- ・ 話題提供お願い

本セッションで, できるだけ多く事例をご紹介いただき, ぎっくらん意見交換したいと考えています。どのような些細なことでも構いませんので, 皆様が日常行っている海洋・資源・漁業を結びつけるような取り組み事例を是非ご紹介下さい。